

私は、この2年間、保育所部会幹事として本部との定期的な意見交流や自治研についての話し合いをおこない、公立保育園の現状や存在意義など当局に対して要望の考案など、本当に沢山の勉強をさせていただきました。

その中で、2024年自治研大分県集会の分科会で学んだことや2025年九地連介護・福祉集会で得た事をはじめ、いくつか自分の仕事に活かしてきた成果をお伝えします。

自治研で学んだこと — 2年間保育所部会幹事を経験して—

大分県本部／日田市職員労働組合 中野 絵美子

1. はじめに ～現代の保育士が求められていること～

20年近く保育士として携わる中で、保育士の仕事は昔に比べ専門性がより増えてきたように感じます。療育の必要な子の対応や、モンスターペアレント、こども誰でも通園制度など、色々な面で求められる専門性に、私たち保育士は一生懸命ついていく日々です。

レポートを作成するにあたって、最初に「保育士に求められていることは何なのか」をAIに質問してみたところ以下のような解答が得られました。

保育士には、子どもたちの成長をサポートするために、様々な能力や資質が求められます。

具体的に求められること

・子どもへの愛情と理解:

子どもの気持ちを理解し、寄り添う姿勢が大切です。子どもが好きであることはもちろん、それぞれの個性を尊重し、成長を温かく見守ることが求められます。

・安全管理能力:

子どもたちが安全に過ごせるよう、環境を整え、事故や怪我を未然に防ぐための注意深さが必要です。

・保育に関する専門知識とスキル:

保育士は、子どもの発達段階に応じた遊びや活動を提供し、基本的な生活習慣を身につけられるように指導する役割を担います。そのため、保育に関する知識や、ピアノや歌、絵画などの実技スキルも求められます。

・コミュニケーション能力:

子どもだけでなく、保護者や同僚の保育士とも良好な関係を築くためのコミュニケーション能力が不可欠です。保護者の悩みや相談に耳を傾け、共に子どもの成長を支えるパートナーとして信頼関係を築くことが大切です。

・体力と健康管理能力:

保育士は、子どもたちと一日中活動するため、体力が必要です。また、体調管理をしっかり行い、感染症の予防や、体調が悪い子どもへの対応も求められます。

・柔軟性と臨機応変な対応力:

保育現場では、予期せぬ出来事が起こることもあります。状況を的確に判断し、柔軟に対応できる力が必要です。

・倫理観と責任感:

保育士は、子どもの成長を支える重要な役割を担っています。高い倫理観と責任感を持って、誠実に仕事に取り組むことが求められます。

・協調性とチームワーク：

保育士は、チームとして連携し、協力して保育にあたることが求められます。同僚とのコミュニケーションを密にし、協力し合える協調性が必要です。

その後に、「現代の保育士に求められることは何なのか？」と改めて質問しなおすと別の解答が来てきました。

現代の保育士には、子どもの成長をサポートする専門的な知識や技術に加え、多様な状況に対応できる柔軟性や、保護者との良好な関係を築くコミュニケーション能力が求められています。

具体的に重要なこと

・専門性：

・子どもの発達に関する深い理解：

年齢や発達段階に応じた適切な関わり方、遊び、環境設定ができること。

・保育技術の習得：

歌、絵本、遊び、工作など、子どもたちの興味を引き出し、成長を促すスキル。

・健康管理と安全確保：

子どもの体調変化に気づき、適切な対応をすること。事故や怪我を未然に防ぐための安全管理。

・特別支援教育への理解：

障害を持つ子どもへの理解と、個別のニーズに応じたサポート。

・食育・栄養に関する知識：

健全な食生活を指導し、偏食や好き嫌いを克服できるようサポート。

・記録・評価能力：

子どもの成長を記録し、保育内容を評価することで、より良い保育につなげる。

・人間性・社会性：

・共感力とコミュニケーション能力：

子どもの気持ちに寄り添い、保護者や同僚と良好な関係を築くこと。

・保護者支援：

子育てに関する相談に乗り、保護者の不安や悩みに寄り添うこと。

・地域との連携：

地域の子育て支援活動に積極的に参加し、地域全体で子育てをサポートする視点を持つこと。

・自己成長への意欲：

常に学び続け、保育の質を高める努力をすること。

・多様性への理解：

様々な背景を持つ子どもたちを理解し、受け入れること。

・その他：

体力と精神力：子どもたちと活発に活動し、心身ともに健康であること。

柔軟性と対応力：予期せぬ事態にも落ち着いて対応できること。

チームワーク：同僚と協力し、保育を円滑に進めること。

現代の保育士は、これらの要素をバランスよく備え、子どもたちの成長を支える「良きパートナー」として、保護者や地域社会から信頼される存在であることが求められています。

現代と付け加えるだけで、内容が詳しくなり、昔と比べて保育士に求められている事がとても増えていることが分かります。日々変わっていく社会情勢で、今を対応していく中、自治労と関わり勉強する機会を沢山いただきました。そこで、この学びを職場に持ち帰り、実際に活動に取り入れたり、職場で共有し、活かした事案を報告させていただきます

2. 私が学んだことと取り組み～自治研の分科会～

2024年の自治研大分県集会分科会では、「支援が必要な子どもへの対応～保育所等訪問での事例より」をテーマに越智芳子先生より訪問支援や保護者支援、リフレーミングの話を行いました。

療育は親の思いからスタートするので、保育士がいくら困りを伝えても親の理解や専門機関への承諾がなければ残念ながら療育には繋がりません。

そんな中、事例A（一歳児クラス）が、私のクラスで持っている子に似ていたので、対応を実践してみました。事例では、1歳11か月の子で「意味のある言葉がでない」「目が合わない」「指さしやバイバイをしない」等が重なっており、支援が必要な子に対して環境が不適切だと特性を持つ子にとって、その環境は障がいになり、安心した環境や適切な環境の提供がとても大切だという話から、まずは環境を整える事を実践しました。日頃は、1・2歳合同クラスの部屋で活動していますが、対象の園児は、人が増えたり部屋がざわつくと大声を出して自分が不快であることを伝えたり、暴れることがしばしば見受けられます。そこで、静かな空間を利用したり、0歳児クラスの部屋が落ち着いている時間を使って、その部屋に行きおもちゃを用意すると、夢中になって遊ぶ姿が見られました。また、実際に事例の子の対応が「動きたい気持ちを満たす」との事だったので、個別対応で廊下を歩き運動したり、他の1歳児と違う空間で好きな遊びを思いっきり取り入れてみました。たくさん遊びを取り入れ、体に刺激を入れる事で、本児もその都度は満足するものの、まだまだ落ち着く様子はなく、経過観察が必要だと感じました。少なからず成果は出ているので、今後もし取り入れていこうと思います。

ただ投げたいというだけで特に意味はなく、急に玩具を投げることも頻繁にあります。声掛けをするも本児が言葉の意味を理解していないので何度も繰り返します。他の園児に危害が与える可能性があるのも、その都度、玩具を変えたり、遊ぶ場所を変え静かな部屋に移動することによって、ゆっくり遊びを行うように関わります。すると、その場では落ち着いてくれます。集団生活を行っているため、いつもこのような対応をとることは難しく、これから先、まだまだ何らかの対応が必要な段階です。保護者に日頃の様子をお伝えしますが、理解が難しく療育まで繋げる事ができずにいます。本児の困りを一つずつ取り除いていけるよう今後も様々な情報を取り入れ実践していこうと思います。

他にも、リフレーミングの内容は大変勉強になりました。リフレーミングとは、物事の枠組みを変え、違う視点からみる事を意味する心理学用語で思い込みや固定観念から別の視点に捉え直すことで、新しい見方を得る思考法で、「こだわりが強い→最後までやり通す」「頑固→一貫性がある」「空気がよめない→自分らしさをもっている」など、子どもや職場関係でも使える技です。園児に対して、先ほど触れた内容でリフレーミングすることにより、声掛けや関わり方が変わり私自身の気持ちも大分楽になりました。また、自分の意識を変えることにより、マイナスの声掛けをするよりもプラスになる声掛けを園児に伝えることで、子ども達の自己肯定感にも良い効果が出て、子ども達も褒められることの喜びを感じ、信頼関係も深まり活動が意欲的になったように感じました。保育園では配置基準の関係もあり、中々、一人の子にゆっくりと関わってあげることが難しい状態です、そんな中でも、園児が心を落ち着かせて、活動をすすめていけるように私たちも精進しなければいけないと思います。

3. 私が学んだことと取り組み～九地連での全大会～

2025年1月に宮崎で行われた九州地連介護・福祉集会分科会では「幼児教育・保育をめぐる現状と課題」というテーマで、自治労本部保育部会長 徳田武史先生より講演やグループワークがありました。チャンスを遠ざけるあいうえお（あきらめ、いいわけ、うしろむき、えんりょ、おもいこみ）や3D（でも、だって、どうせ）など保育現場だけでなく、日頃から意識したい内容がありました。

中でも、グループワークで、「民営化・統廃合について」のグループで意見交換を行ったことが大変印象に残りました。

日田市は少子化が進む中で、園児獲得のために私立の園も多くの知恵を出して経営を続けています。年々、公立園の数は減っていき、鹿児島県は公立保育園、幼稚園がない地域も多く、どのように民間に繋げていったのか、また、民間が受け入れない子ども達についての受け皿はどうなっているのかが気になっていました。

実際、グループワークに保育士はいなかったものの本部の方とお話し、公立がなくても表面は成り立っていることがわかりました。しかし、日田市は最後の砦として入園する子も一定数おり、民間のみにするには多くの懸念があります。実際に、宮崎のある地域は公立が一つしか残っておらず、悩みを抱えた保護者や子どもが、一か所に集まり、保育士の異動もほとんどない状況での課題や、公立園が減ること、最後の一つが無くなることは良いことではないと県を超えて現状を聞く良い機会になりました。私たちの地域も、今後の公立保育園のあり方について、以前から様々な意見が飛び交っています。自分自身も何が正解かわからない中で、昨年の九地連は大変役に立つお話でした。

【第2分科会】 「幼児教育・保育をめぐる現状と課題」 (内 容) 1日目 講演「幼児教育・保育現場の課題と対策」 講師：徳田 武史（自治労本部保育部会会長） 2日目 グループワーク（意見交換） ① 民営化・統廃合について ② 保育ICTについて ③ 働き方・職場環境について (対 象) 保育所・認定子ども園・幼稚園・給食担当者・児童館・児童施設 市町村保育担当者・保健師・看護師 (司会者) 江藤 友美（自治労本部保育部会幹事：福岡県本部） 中吉 純也（自治労宮崎県本部保育部会会長） (助言者) 徳田 武史（自治労本部保育部会会長）	九州地連介護・福祉集会 第2分科会 25.01.18 『幼児教育・保育をめぐる現状と課題』 自治労本部 社会福祉評議会 保育部会 部会長 徳田 武史 ① はじめに - 自己紹介 & アイスブレイク ② 保育をめぐる現状と課題 - Withコロナ から Afterコロナへ 新たな気づきを活かしていますか？ - こども未来戦略方針「こども・子育て支援加速化プラン」 保育の質の確保、こども誰でも通園制度の創設、多様な支援ニーズへの対応 ③ 保育士等の処遇改善について - 保育現場が抱えている課題 - 配置基準の見直しと組合活動 実績（公立保育所）が変われば、基準が変わります ④ 保育を創造しよう ～ すべての子どものために ～ - 保育現場のICT化 - 保育内容の見直し - 医療的ケア児の受け入れ - こども誰でも通園制度について ⑤ おわりに - 公立教育・保育施設の役割 ブランディングできていますか？ - 県本部、本部保育部会への結集を！！ 
--	--

2025年度九州地連介護・福祉集会 第2分科会レジュメ資料

4. 幹事会での意見交換会

幹事会では、色々な意見交換が行われました。調理師の急な体調不良による給食対応の仕方や「一時預かり」の現状、「こども誰でも通園制度」の取り組み方、保護者対応や気になる子の配慮方法など、地域によって様々な意見があることがわかり、良いところはどんどん取り入れて活かしたいと思いました。

特にICT化に力を入れている中津市職労の方からのコドモンの話については大変参考になりました。日田市でもコドモンは導入していますが、園児の出欠連絡や園からの諸連絡、写真販売など保護者に向けての使用がほとんどです。他の市では、月案や指導計画など保育士向けの内容も行っており、それが監査でも使用出来るとのこととても魅力的でした。連絡ノートの記入も日田市では、一人ずつ手書きで保育士が記入していますが、コドモン管理で一人の保育士がタブレット送信の方が効率が良いとの話も出ました。実際に導入するとなると、1クラス1台のタブレット導入やコドモンの追加費用などで予算がかかるのですが、働きやすい職場を目指して交流会をもとに得た情報を当局に発信していきたいです。

5. 終わりに

私は、6年ほど民間幼稚園で勤務した後、日田市の職員として公立保育園や支援センターでの勤務

を経験しました。実際に日田市職労に入ってみて、専門的な知りたい内容の講演を聞かせていただいたり、自分たちの権利を獲得するために沢山の尽力があることを改めて知りました。専門職として沢山の学びの場を経験させていただき本当に感謝しています。

保育現場では国の定める配置基準は満たしているものの、子どもの成長を助ける上で、保育士がもっと必要という声が沢山あがっています。少子化対策として女性の社会進出を進めることにより、本来、家で我が子を見ることができる母も、保育園に預ける家庭が増えました。そのことによって、子育てや、親子関係にひずみが出来ているのは、まぎれもない事実です。保育現場では、まだまだ、沢山の課題が残っており、親の園利用によって、負担が増えているのは間違いなく子どもたちです。

昔と今では、保育士に求められる事柄が違ふのと同時に、社会での子どもの生活や存在そのものが変わってきています。保育園を近くに建設するとうるさいから反対するという声が簡単にあがる世の中になっています。日本全体の心が豊かになって子ども達のがのびのびと過ごしていくためには、日本中の人々が考えないといけないテーマだと思っています。

これからも、自分達が働きやすい環境を作ってください自治労に感謝して、いきいきと働くことができ、未来を担う子ども達のがのびのびと、そして明るい未来を築いていけるように頑張りたいと思います。